

「母子保健・医療情報データベース」の運営および利用状況報告

研究協力者 山田 七重（山梨大学大学院総合研究部医学域社会医学講座）
秋山 有佳（山梨大学大学院総合研究部医学域社会医学講座）
研究代表者 山縣 然太朗（山梨大学大学院総合研究部医学域社会医学講座）

研究要旨

「母子保健・医療情報データベース」は、母子の保健・医療・福祉に関する調査・研究・事業等の情報を広くまとめたデータベースであり、有効活用されることで日本の母子保健水準の向上を期待して「健やか親子21」の第1次開始時に構築された。2001年4月以降、現在まで約22年間運営管理してきたが、データベースの仕様が古くなってきたこと、時代の変化とともに新しい指標が求められてきたことを鑑み、2020年度にデータベースの再構築を行った。本稿では本年度の運営状況及び利用状況について報告する。

公開時に2,337件であったデータは、22年間のあゆみの中で毎年平均177件、2022年は118件を追加し6,221件となった。また、データベースへのアクセス数は毎月200件程度であり、特定の期間内にサイトを訪れたユーザーの数を表す指標であるアクティブユーザー数（期間内、同じユーザーが何度サイトを訪問しても1とカウントする）をみると、2022年は平均して毎日2人、毎月135人に使用したことが分かった。データベースへのアクセス数やユーザー数は、多いとは言えないものの、本データベースの研究者や保健師等、専門家向けのコンテンツという特色や、アクセスしにくい環境である事を踏まえると、一年を通して利用者がおり、一定のニーズがある事が伺えた。

A. 研究目的

「母子保健・医療情報データベース」は、母子の保健・医療・福祉に関する調査・研究・事業等の情報を広くまとめたデータベースであり、有効活用されることで日本の母子保健水準の向上を期待して「健やか親子21」の第1次開始時に構築された。2001年4月以降、現在まで22年間にわたって運営されている。データベースの仕様が古くなってきた事や、時代の変化とともに、新しい指標が求められてきた事等の状況を鑑み、2020年9月にデータベースの再構築が行われた。本稿では本年度の運営状況及び利用状況について報告する。

B. 研究方法

今年度の「母子保健・医療情報データベース」の運営、利用状況を把握した。「母子保健・医療情報データベース」は、Web公開された2001年4月以降、現在まで22年間にわたって運営されてきた。データベースの利用状況については、その内訳を把握する一つの指標として、アクセス数を用いた。

（倫理面への配慮）

「母子保健・医療情報データベース」に関しては個人情報扱っていない。

C. 研究結果

1. 「母子保健・医療情報データベース」の運営状況

母子保健・医療情報データベース(図1)は、WEB公開された2001年4月以降、現在まで22年間にわたって運営されている。データベースの仕様が古くなってきた事や、時代の変化とともに、新しい指標が求められてきた事等の状況を鑑み、2020年9月にデータベースの再構築が行われた。この際、新たに「科学的根拠の強さ」という指標が追加された(図2)。この指標により、情報の質を判断する指標が充実し、より一層、情報の集積・評価・活用を一元化したシステムの強化が図られたといえる。ただし、これまでに搭載されている情報一つ一つについて、科学的根拠を見定めた上での入力が必要となるため、現在メンテナンス中である事をアナウンスした状況にある。



図1 母子保健・医療情報データベース

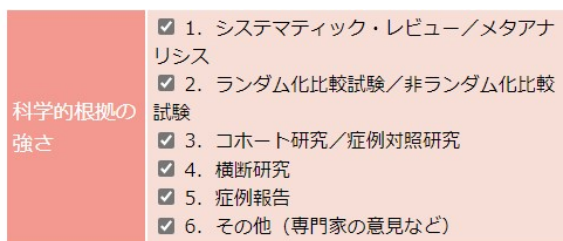


図2 新たな指標「科学的根拠の強さ」

2023年3月現在でのデータ数を表1および表2に、またデータベースのデータ数の推移を

図3に示した。公開時に2,337件であったデータは、22年間のあゆみの中で毎年平均177件が追加され、現在では6,221件となった。なお2022年は、厚生労働科学研究(成育疾患克服等次世代育成基盤研究)、民間研究所報告書についての追加・更新作業が主であった。データ追加数は118件、データ更新数は、463件であった。

データベースには、所蔵場所としてURLを登録する箇所があるが、長年の経過の中で、会社名や組織名、担当省や部署の変更や、サイトのリニューアルによるURLの変更等の影響から、過去のURLが使えなくなり、リンクエラーとなってしまう場合が多々ある。一方で学会誌等、web上で文献が公開される範囲は広がりつつあり、紙媒体を手にする事なく、web上で全ての内容を把握できる傾向が強まってきている。過去の文献についても、これまで公開されていなかったものがweb上で公開されている事もある。より有意義で使いやすいデータベースを保持するために、そのようなリンクチェックは非常に重要であり、新指標の「科学的根拠の強さ」の項目の入力と共に、URLの有効性のチェックを進め、データベースの鮮度を保つ事を目指した。2022年度は6,221件のうち、463件についてデータ更新作業を行った。昨年度のデータ更新分1,079件、今年度データ入力分118件と合わせて1,660件(26.7%)について分類を終え、なお未分類となっている4,561件(73.3%)のデータについては今後更新作業を進める予定である。

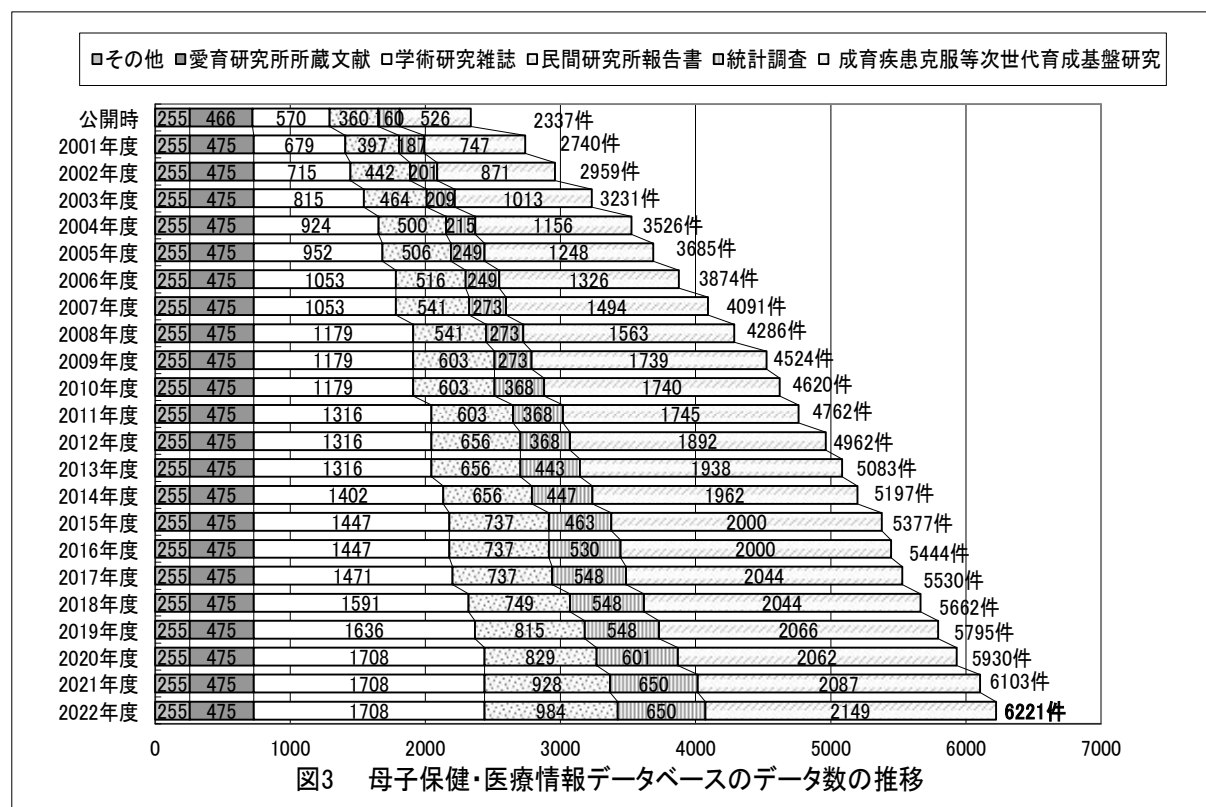
表1 情報源別DB登録数(2023年3月現在)

	掲載数	割合
成育疾患克服等次世代育成基盤研究	2,149	(35.2%)
学術研究雑誌	1,708	(28.0%)
民間研究所報告書	984	(16.1%)
愛育研究所所蔵文献	650	(10.7%)
統計調査	475	(7.8%)
その他	255	(4.2%)
計	6,221	

2006年度	189	3,874
2007年度	217	4,091
2008年度	195	4,286
2009年度	238	4,524
2010年度	96	4,620
2011年度	142	4,762
2012年度	200	4,962
2013年度	121	5,083
2014年度	114	5,197
2015年度	180	5,377
2016年度	67	5,444
2017年度	86	5,530
2018年度	132	5,662
2019年度	133	5,795
2020年度	148	5,943
調整	-13	5,930
2021年度	173	6,103
2022年度	118	6,221
合計	3,884	

表2 母子保健・医療情報データベース
データ数の推移

	データ追加数	データ総数
公開時		2,337
2001年度	403	2,740
2002年度	219	2,959
2003年度	272	3,231
2004年度	294	3,525
2005年度	160	3,685



2. 母子保健・医療情報データベースの活用状況

2020年9月のデータベースの再構築とともに、アクセス数の解析システムも新しくなった。ページへのアクセス数のみをカウントする「ページビュー数」を把握できるようになり、これまでより正確で詳細なユーザーの動向を捉えられるようになった。

図4にデータベース再構築後のアクセス数（ページビュー数）の推移を示した。2022年は月平均で200件程度、合計では2,740件のアクセスがあった。2021年度と比較し減少傾向がみられた。

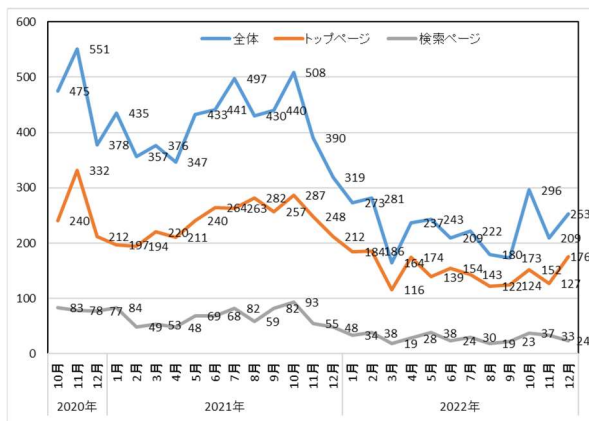


図4 母子保健・医療情報データベースへのアクセス数

2022年2月に健やか親子21（第2次）のホームページがリニューアルされ、厚生労働省のサイトで公開された。これに伴い、トップページから「健やか親子21と成育基本法について」へ、さらに「取組のデータベース」へ、スクロールして最下部の「リンク」の一つに「母子保健・医療情報データベース」へのリンクが出てくる設計となっており、アクセスしにくい場所におかれている。ちょうどその入替の2～3月より、アクセス数は落ち込んでいるため、アクセスしにくい事が、アクセス数減少の原因の一つと推測される。

アクティブユーザー

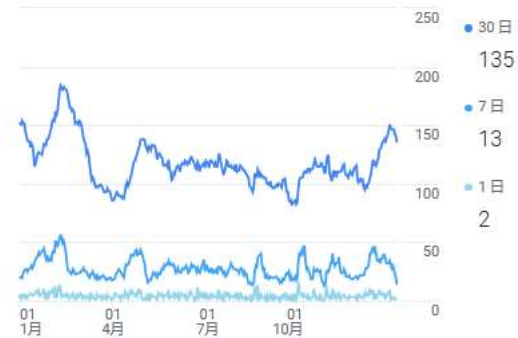


図5 アクティブユーザーの動向

図5にアクティブユーザー数、図6にデバイス別セッション数、図7に時間帯別ユーザー数を示した。アクティブユーザー（AU）数とは、特定の期間内にサイトを訪れたユーザーの数を表す指標であり、期間内であれば、同じユーザーが何度サイトを訪問してもAU数は1となる。サイトを訪れた回数や見たページ数などに関係なく、サイトを訪れたユーザーの数だけがカウントされるため、単純に実際に何人に使ってもらえたかを把握できる指標である。図5を見ると母子保健・医療情報データベースには、平均して2022年には毎日2人、毎月135人がアクセスした事がわかる。2021年には毎日5人、毎月155人がアクセスしており、この数を見ても減少傾向が認められた。

デバイス別セッション数

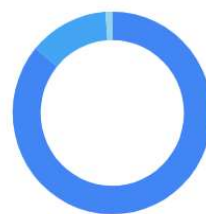


図6 デバイス別セッション数

図6には、ユーザーがどんなデバイスでデータベースにアクセスしているかを示した。パソコンによる活用が86%と主であるが、モバイルやタブレットによる利用もわずかにあった。

母子保健・医療情報データベースが構

築された 2000 年は、主にパソコンユーザーを想定して構築されたが、デバイスは、時代と共に変化するものであり、ユーザーのデバイスの多様性を想定して、今後、見やすく検索しやすいシステムへと検討していく事も課題となる。

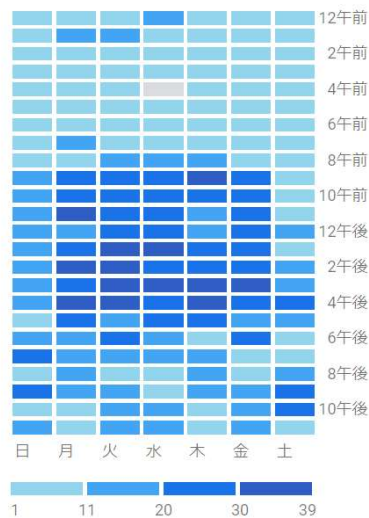


図 7 時間帯別ユーザー数

事が把握できた。

D. 考察

2001 年に構築された母子保健・医療情報データベースを取り巻く環境は、この 22 年間で、大きく変化してきた。省庁改変や、時代の流れに伴う URL の変更、電子データ化の推進等の中で、運営を続けてきた。

データベースの構築当初は、研究班のメンバーが子ども家庭総合研究所を訪れ、分野ごとにわかれて、膨大な所蔵文献を実際に手に取り、一つ一つ確認し、該当する文献を選択し、概要を手書きでシートにまとめ、後日データベースに入力した。当時はインターネット上で電子データと

して文献全体を見られるものは、ごくわずかであった。

今年の更新作業において、過去に入力した 463 件について、URL の確認・修正と、科学的な根拠の価値づけを行った。文献の電子データ化が進み、インターネット上で文献が閲覧できる今だからこそ、科学的な根拠の価値づけも容易に行う事ができる。中には 20 年以上も前に入力されたデータに、初めて URL が入力されたものもある。

一例として民間研究所の文献を取り上げる。著者名に「ベネッセ」と入れて検索すると、395 件がヒットする。調査年でソートすると 1978 年の文献が一番古いものとして出てくる。1978 年に調査された「調査レポート 中学生の余暇」を見ていくと、インターネット上の文献そのものの PDF にリンクされており、45 年前の文献を誰でも見る事ができる。そこには民間研究所による文献ならではの当時の中学生等の写真等があり、貴重な調査結果と共に、時代を映している。中学生や高校生の姿、ジェンダーの捉え方、価値観等、時代の変遷と共に変わってきた事を、文献を通して知る事ができる。このよ

	タイトル	調査年(度)	区分
1	調査レポート 中学生の余暇	1978年	
2	調査レポート 中学生の母親の意識	1979年	
3	調査レポート 高校生の描く未来像～その進路と大学選択	1979年	
4	調査レポート 学業不振とその背景	1980年	
5	調査レポート 交換日記～中学生のサブカルチャー～	1980年	
6	調査レポート 女子中学生～その心の傾斜	1981年	
7	調査レポート 生徒がみた中学教師	1981年	
8	調査レポート 中学生の父親～新しい父親像の誕生	1981年	
9	調査レポート 叱り方と子ども	1981年	
10	調査レポート 異性・結婚・家庭	1981年	

全395件中 1件から10件を表示

前のページ 1 2 3 4 5 ... 40 次のページ

追加 出力

更新日 2023/03/19 データ数 6221件

うな過去の文献データにこそ、これからの子ども達の健やかな育ちを応援するヒントがあふれているのではないだろうか。

母子保健・医療情報データベースには、なるべく最新のデータを反映させ、タイムラグなく、最新の文献を入手できるようにするという大切な役割がある。そう考えると、時代が変わり、状況が変わってきた中で、多くの研究者が熱心に研究を重ねて来た成果である過去のデータは、現代の社会にそのまま反映させる事が難しいため、無用と思われるかもしれない。しかし反面、とても貴重な資料となる事もまた事実である。

時代の流れと共に、私達は何を得て、何を失くして、その結果として、子ども達の今の状況があるのか。母子保健施策に掲げられた健康課題を解決する道を考える時に、必ず過去のデータに、そのヒントが示されているのではないかと考える。

タイムラグのないデータベースを目指しつつも、更新・追加作業が遅々としている状況や、アクセス数の減少等、課題はあるものの、時代の証人としての役割も少なからず果たしながら、母子保健を支える一つの軸として、母子保健・医療情報データベースを運用・活用していく事は、これまでも、これからも、大きな意義があると思われる。

E. 結論

「母子保健・医療情報データベース」に関しては、健やか親子21（第1次）から継続的に専門的な情報の発信を行っている。昨年度に再構築しており、一定のアクセス数もあることから、母子保健関係者への情報提供の重要な場となっていると考えられる。また、「子育て相談を支援するデータベース」と併せて使用することで、より有益な活用がされていくのではない

かと考える。今後も継続して更新を行っていく。

F. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

G. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし